

国家試験に向けて ギアチェンジ！

師走に入り、令和元年も残すところ数日となりました。後期がスタートし、日々の講義、臨地実習、学校行事と一日一日を過ごし、気がつきますと季節は秋から冬へと変わっていました。この間、1年生は2回目の基礎看護学実習Ⅰ②へ経験の階段を上り、2年生は成人看護学実習を終え、東京へ研修旅行に行きました。3年生は領域別臨地実習、そして集大成である統合実習も終了しました。ケーススタディ発表会では凛々しく成長した姿に感動しました。今は看護師国家試験にむけて、ただ・・・集中するのみの時期となりました。（校長 澤田貴美子）

ことぶき大学生との交流会 9月4日（水）1・2年生



毎年、9月上旬にことぶき大学生との交流会を持たせて頂いています。この交流会を通して大学生の皆様とこれまでの人生のこと、仕事のこと、入院や外来受診時の看護師の対応のことなど多くのお話をし、沢山のことを学ばせて頂いています。ありがとうございます。来年もお待ちしています！！

昨年から老年看護学の学内演習にもご協力頂き、学生は受け持ちの患者さんとスムーズにお話ができたり、血圧測定やバイタルサインの観察ができ、充実した実習になっています。



臨地実習の進捗状況紹介

基礎看護学実習Ⅰ①

基礎看護学実習Ⅰ②

基礎看護学実習Ⅱ

入学後間もない5月下旬に1週間の「**基礎看護学実習Ⅰ①**」で病院の環境、患者さんとのコミュニケーション、看護の実際を見学・体験しました。さらに専門基礎分野の解剖生理・病態学の知識を積み重ね、看護技術発表会ではその基礎的な看護技術を実践し、臨床看護総論では看護過程の基礎を学習しました。ステップアップの「**基礎看護学実習Ⅰ②**」を10月28日から11月10日までの2週間体験しました。

基礎看護学実習を終えて、患者に合った援助を考え実際に実施したが思った以上に難しかったため、もっと練習が必要だと感じた。ADLを低下させないような援助を考えることが大切だと学んだ。
1年 藤原 遙花さん

私は今回の実習で患者さんの個別性に合わせた援助の重要性を学びました。学校で習うことは基本的なことです。その基本＋患者さんの病状や思いなどを踏まえて援助は考えていくものであると感じました。
1年 大谷奈々末さん

老年看護学実習Ⅰ

成人看護学実習Ⅰ

成人看護学実習Ⅱ

5月に「**老年看護学実習Ⅰ**」を終え、9月24日から10月11日までの3週間「成人看護学実習Ⅰ」を体験しました。この実習では受け持ちの患者さんの看護計画を立案しました。「看護って楽しい！」と思える体験をしたのではないのでしょうか。

成人看護学実習をおえて、対象が抱える疾病をどれくらい理解しているかということがそのまま行うケアに反映されるため、改めて疾病理解の重要性を実感した。今回得た多くの学びをこれからの学習で活かしていきたい。2年 脇田亜依梨さん

初めて、看護目標、看護問題、看護計画を立案し、それを基に援助を行った。健康問題を解決するには対象を多角的に捉え最終的なゴールを見据えて関わっていくことの必要性を学んだ。
2年 有持萌花さん

老年看護学実習Ⅱ

母性看護学実習

精神看護学実習

成人看護学実習Ⅲ

小児看護学実習

在宅看護論実習

統合実習

3年次の臨地実習は5月13日から開始し、12月6日が最終日で7科目の領域別実習の連続実習が終了しました！

学習支援プログラムの紹介

富良野看護専門学校では、学習支援の中で学年を越えて上級生・下級生が共に学び合い看護技術の向上を図ることを目的に、屋根瓦式の技術演習を実施しています。先輩が後輩を指導することで、後輩が学びを得るだけでなく、教える先輩にとっても自己の学んだことを振り返る機会となります。現在1・2年生で基礎看護技術、2・3年生で妊婦の諸計測の演習を行っていますが、看護技術を深めるだけでなく、悩みや相談したりなどコミュニケーションの機会となり、学生にとっても有意義な時間となっています。(学習支援担当 田中文雄)



今回の合同技術演習では、最高学年として講義や実習での学びを踏まえて、参加することでより知識を深めることができましたと感じています。今後も他学年交流を通して、それぞれが学べる環境があるといいと思います。

3年 金丸 優雅さん

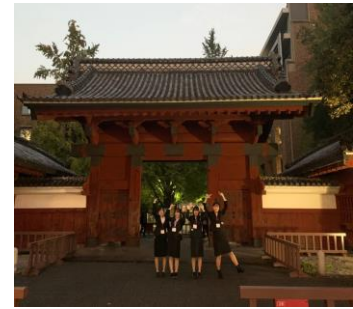


3年生から2年生へ

2年生から1年生へ

宿泊研修 2年生 11月13日～15日

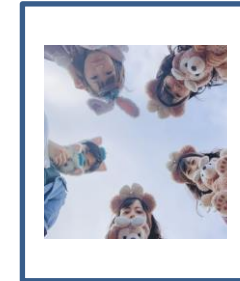
東京へ2泊3日で研修旅行に行きました1日目は東京大学標本見本室の見学でした。初めて献体に驚愕するとともにご遺体への生命の尊厳について深く考える機会となりました。見学で考えたこと、感じたことを看護職として大切にしたいです。2日目は自己研修でした。それぞれの目的に応じて東京を満喫したようです。



東京大学の赤門の前で・・・「ハイポーズ」



2日目
自己研修



私は東京大学標本室を見学させていただき、実際に病気の症状を目で見ることで、今まで学習してきたことと繋がり深めることができました。また私たちが今健康でいられるのはご遺体を提供してくださった方々がいたからだということを念頭に置いて、医療に従事していきたいと強く思いました。

2年 佐久間瑠菜さん

標本室での見学の説明を受け、質問をしながら行うことができ、普段では絶対に経験ができない学習をすることができました。そのためモチベーションも上がりました。この貴重な学習はモチベーションが上がっただけに止まらず、実習や国試に活かしていきたいです。そしてこの経験は富良野看護だからできた有難いことだと感じています。

2年 鎌田弥優さん

ケーススタディ発表会 3年生 12月17日～18日

ケーススタディは3年次の前期までの領域別の臨地実習で受け持った事例について論文にまとめたものです。看護の実際を振り返り、科学的な根拠や文献との照合を通して自己の看護を深めることができました。発表者としての姿勢、質疑応答、講評の内容から成長した姿に大変感激しました。



臨床実習指導者の皆様、看護研究担当講師の小川先生からの温かなご助言・講評を頂きました。

ありがとうございます。

がん教育交流学習会 12月19日



テーマは「がん告知」、参加者は看護師を希望する富良野高等学校1年生16名、2年生13名の29名と本校2年生10名の39名でした。5グループに分かれ、看護学生は進行役としてディスカッションを進め、最後に高校生代表が発表し全体で共有しました。がんは国民の二人に一人がなる病気と言われています。医療が進歩し、がん＝死ではありませんが、誰から告知を受けるか、がんに向かい合い「生きる」を支えることが重要です。自分事として人生会議は必要なことです。

この企画の看護学生の満足度は『非常によかった』90%、その理由として「色々な意見を聞き刺激となった」「高校生の考えを知ることができた」であり、「ディスカッションの中でも残された時間を大切にしたいという考えが多く、私達看護者がその方の希望・願いをどう叶えられるか考えるきっかけとなりました」等の多数の感想がありました。

高校生の皆さん、校長先生、坂口先生、ありがとうございます。



広報誌3号は2020年3月6日発行予定です。令和元年はとても良い年でした。令和2年もさらに素晴らしい年になりますことを願っています。